

The way forward

トップインタビュー

積極的に自らを進化させ、 現代の荒波に負けない組織へ。

米中貿易摩擦や日韓経済問題の広がりなど、私たちを取り巻く世界は今、不安定な状況を迎えています。MORESCOは国内外でトップシェアの製品を数多く生産していますが、このような中では突発的にモノが売れなくなるリスクもあり、今後は新たな領域へ参入していく力をさらに強化する必要を強く感じています。いかに固定観念から脱却し、より強い組織となれるか。全力で進化を実現したいと思います。

第一に挙げられるのは、チームの進化です。AIによりさまざまな仕事が自動化し、質とスピードが向上する中で、より付加価値の高いモノづくりを素早く実現するチームの構築こそ肝心のポイントでしょう。第二は、海外ビジネスの進化です。これまでは国内での実績を元に海外で事業を展開してきましたが、変化の激しい社会において従来の方法だけでは通用しません。さらに各国の状況に合わせた事業を展開し、現地企業、グローバル企業とのビジネスを広げていきます。第三は、新分野への挑戦です。私たちは水と油と高分子のスペシャリストと自負してまいりましたが、今後はさらにプラスワンが必要。有機薄膜太陽電池(OPV)の実用化、ライフサイエンス分野への進出といったより難易度の高いテーマを現在進めています。また、製品だけでなく、ユーザーの生産支援システムまで当社でサポートするなどの提案も計画。時代のニーズを先取りし、世の中に新たな価値を提供していきます。

株式会社 **MORESCO**

代表取締役会長 CEO 赤田 民生



厳しい状況下でも、未来につながる
新たな芽をしっかりと伸ばしたい。

代表取締役社長
社長執行役員 COO 両角 元寿

第62期上期の業績は、米中貿易摩擦の激化による中国の自動車生産の停滞という環境要因に大きく影響を受けました。特に自動車部品の製造に用いられる特殊潤滑油や高温用潤滑油、自動車内装用のホットメルト接着剤の売上が落ち込んでいます。またストレージ市場においてSSDが一時的に大きく値下がりしたことでHDDの需要減となり、当社のハードディスク表面潤滑剤の売上也減少する結果になりました。これらにより、上期は前年同期比(連結)で減収減益となりました。今後も地政学的リスクなどに大きく左右される可能性があり、引き続き世界の市場動向を注視する必要があります。その一方で足元に目を移せば、国内を中心に新製品が着実にシェアを拡大するなど、下期以降の業績回復に期待が持てる要因も増えています。廃液が少なく作業環境の改善にもつながる水溶性少量塗布型離型剤や粉体離型剤、切削油剤といった特殊潤滑油製品は当社品のメリットが認められ、新規取引先を増やしています。また

ホットメルト接着剤は粘着分野が好調で、市場開拓が順調に進んでおり、今後は医療品向けにも展開していきたいと考えています。新規事業として育成してきたデバイス材料事業については、中国で有機デバイス用封止材が好評を博しました。有機EL市場の拡大を背景に、昨年度末より売上を急速に伸ばしてきています。規模はまだ小さいものの、今後世界的に有機ELが広がりを見せることを考えると、将来有望な事業として大きな期待がかかります。これらに加えて、私たちが今最も注力しているのが、インド市場への本格参入です。足元では現地自動車生産の停滞によりインドの経済環境は思わしくありませんが、今後間違いなく伸びてくる市場です。国の発展に伴って、今後は当社が提供する高付加価値製品が必要とされるチャンスが必ず増えるでしょう。下期以降は新製品の拡販およびインド市場への進出などの新展開の芽を大きく伸ばし、ビジネスをより一層拡大していくことを狙います。



7月よりインド新工場を稼働。今後の海



MORESCO HM&LUB INDIA
PRIVATE LIMITED
Managing Director
川西 雄治

2019年7月15日、インド新工場の竣工式が行われ、長年計画してきたインド市場展開がいよいよ本格スタートしました。インド市場はその成長力で世界中から注目される一方、これまで多くの日系企業が参入に苦戦してきた「難所」でもあります。優秀な人材が製造業に集まりにくい傾向、ジャパン・ブランドが浸透していない土地柄、またインドならではの課税制度・法体系など、課題は少なくありません。そのような土地で勝負していくため当社では、本工場を特殊潤滑油とホットメルト接着剤の二部門を手がけるハイブリッド型とし、また経理や総務といった間接部門の強化も図ることで、市場に対して柔軟な対応をとれる体制を構築しています。今後は当社製品のオンリーワンの価値を武器に、市場で存在感を発揮していくことを目指します。

インド工場のこれから

工場設備を本格稼働させ、
安定供給体制を確立



インド工場の生産ラインはテスト生産をスタートし、納入先企業との現地生産体制の調整を進めています。現在はタイのグループ会社から輸入した製品を現地で販売している状態ですが、インド市場の需要は非常に大きいと感じています。おむつなどに使用される当社のホットメルト接着剤は、豊富な人口に消費が支えられ、生活の質の向上に伴ってさらなる需要も期待できます。また停滞気味の自動車生産も、将来的には拡大が予想され、当社潤滑油への要求もさらに高まると思われます。これらの旺盛なニーズにしっかりと応えられるよう、製造・生産から搬出までの供給体制を整備していきます。

MORESCO 年間トピックス

3月

OPV開発部を設立、有機薄膜太陽電池の開発を促進

2019年3月にデバイス材料事業部からOPV開発部を独立させ、有機薄膜太陽電池(OPV: Organic Photovoltaics)の開発を加速させています。OPVは発電材料が有機化合物であるため、さまざまな特長(薄い、軽い、柔軟、シースルー等)を持っています。また、従来の太陽電池に比べ、製造時のCO₂発生量や廃棄物量を大幅に低減でき、再生可能エネルギーの中でもより環境にやさしい太陽電池です。兵庫県庁(2号館13階みどり展望園)に当社のOPVを設置し、発電した電力でジオラマの照明および電車模型を駆動させる展示を行っています。



OPVを使ったジオラマの展示

外展開活性化のエンジンに!



MORESCO HM&LUB INDIA PRIVATE LIMITED外観



竣工式の様子

オンリーワンの製品メリットで 低価格市場にシェアを築く

コストメリットが重視されるインド市場の特性は、大きな参入障壁となっています。しかし、私たちは価格面だけで勝負しようとは考えていません。MORESCOの製品は、性能を維持したまま低温塗工を可能にし、トータルコストを抑えられるホットメルト接着剤をはじめ、他社に真似のできないメリットを備えています。当社としては目先の販売価格ではなく最終的なコストパフォーマンスをきちんと伝えられる販売体制を整えることでお客様に正しく評価いただき、価格競争に巻き込まれることなく、シェア拡大を実現していく考えです。

海外売上比率を40%から50%に 引き上げる牽引役に

当社は、海外売上比率をさらに押し上げることに注力していますが、米中貿易摩擦や東南アジアでの景況の一服感などの影響もあり、目標達成のプースト役が必要となっています。そこで本工場が強力にMORESCOの海外展開を進める牽引役となることが期待されており、現在はその基盤づくりとして以前から引き合いのあった衛生材メーカーを中心に営業を展開。今後は、現地代理店と連携をとりながら、現地企業やグローバル企業への導入も積極的に目指していきます。中国など海外市場に参入し、黒字化してきた当社のノウハウも活用し、速やかに売上アップを達成していきたいと考えています。

5月 (株)マツケンが大阪・香川の展示会に出展

グループ会社の(株)マツケンが、「JP2019・ICTと印刷展」(大阪)、「2019 ISSEISHA FAIR」(香川)に出展。印刷業界に対して高い排水処理技術をアピールできました。



「2019 ISSEISHA FAIR」展示ブースの様子

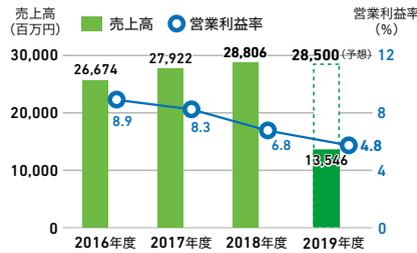
6月 低VOCホットメルト接着剤を生産開始

2019年6月より中国の天津莫莱斯柯科技有限公司にて、環境汚染や健康被害を引き起こす有害物質であるVOCの含有量をほぼゼロにした、低VOCホットメルト接着剤の生産を始めました。

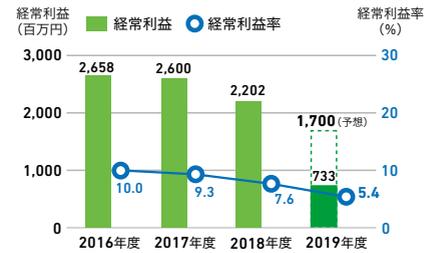


当第2四半期連結累計期間の売上高は13,546百万円(前年同期比4.6%減)となり、経常利益は733百万円(前年同期比42.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は341百万円(前年同期比56.7%減)となりました。

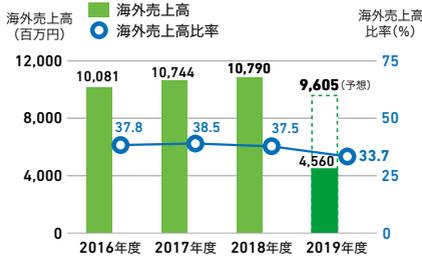
売上高と営業利益率



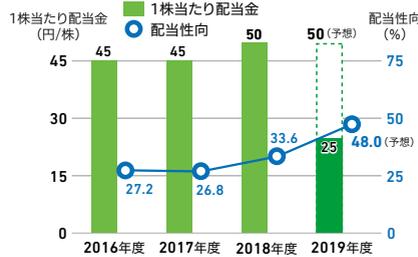
経常利益と経常利益率



海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

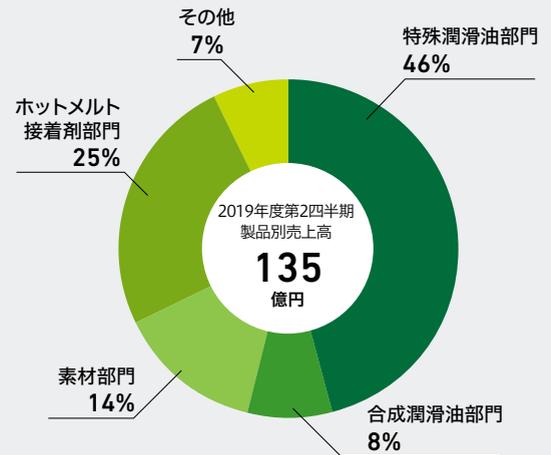


セグメント情報



低調な世界経済の影響を受け、全体として減収減益に。

米中貿易摩擦に伴う世界経済の減速の影響が大きく、製品出荷量は各カテゴリー共に減少。自動車生産台数の落ち込みにより中国での特殊潤滑油の売上が減少し、HDD市場の縮小により合成潤滑油の売上が減少しました。またホットメルト接着剤についても、新規市場の開拓が進んだ国内市場を除き、減収となりました。



特殊潤滑油

ダイカスト用油剤が減収となり、切削油剤は新規顧客の獲得により増収。売上は前年同期比微減となりました。

合成潤滑油

高温用潤滑油の輸出減少、およびハードディスク表面潤滑剤の出荷減少により、売上は前年同期を下回りました。

素材

各製品の出荷量は減少しましたが、販売価格の引き上げにより、売上は前年同期並みとなりました。

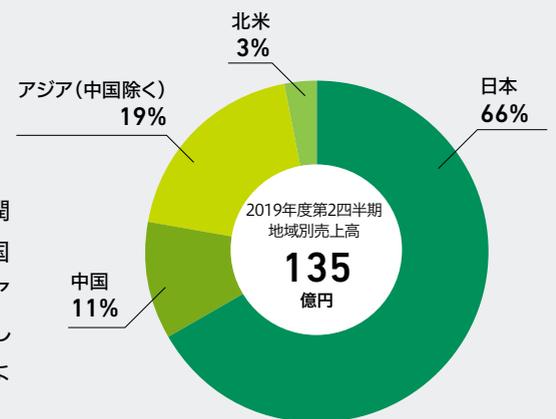
ホットメルト接着剤

中国でのフィルターおよび自動車向けの需要が落ち込んだことにより、売上は前年同期を下回りました。



中国向け製品の出荷が減速し、各国市場に影響を及ぼす結果に。

日本では特殊潤滑油部門において新製品の拡販により増収となりましたが、合成潤滑油部門では顧客での中国向け輸出が減少したため全体売上は減少しました。中国では自動車生産の減少、および消費意欲の落ち込みにより大幅な減収に。東南アジアにおいては、HDD需要の減少や自動車部品の輸出減少により、全体の売上は減少しています。北米では自動車の需要シフトに伴う一部メーカーでの稼働率の低下により、主力のダイカスト用油剤が減収。全体の売上も減少しました。



会社概要・株主情報 (2019年8月31日現在)

■会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,118,294,000円
従業員数 383名

●本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町
5丁目5-3
電話078-303-9010(代表)
支店 東京支店/大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場/赤穂工場

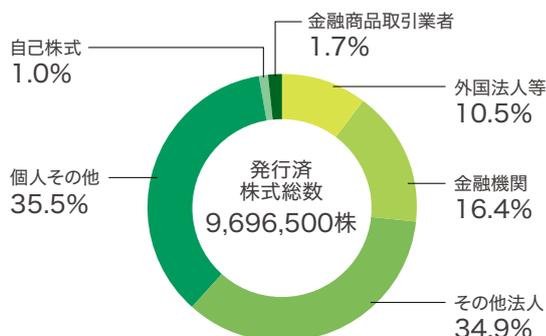
■役員構成

代表取締役会長 CEO 赤田 民生
代表取締役社長 社長執行役員 COO 両角 元寿
取締役 専務執行役員 CFO 竹内 隆
取締役 上席執行役員 海外担当 瀬脇 信寛
取締役 上席執行役員 CTO 坂根 康夫
取締役 浅野 応孝
取締役 リ・ジュ・ジュディ・リン
取締役 出口 侑宏
常勤監査役 作田 真一
監査役 富野 武
監査役 小沢 史比古
監査役 長谷川 克博

■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,696,500株
株主数……12,340名

●株式所有者別分布状況



●大株主

株主名	持株数	持株比率
松村石油(株)	1,067,000	11.1%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	671,700	7.0%
コスモ石油ルブリカンツ(株)	503,000	5.2%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	340,520	3.5%
双日(株)	327,000	3.4%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	297,300	3.1%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(97,958株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日

■中間配当金受領株主確定日

(中間配当を行う場合)

8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町

三丁目6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。